

報告② ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ) ネパール訪問報告

今回の訪問国ネパールは、来年開かれるアジア知的障害会議の開催国に決定しており、その前に現地を訪問し、福祉分野の状況を視察したいと訪ねました。幸い、ぱれっとがこれまで様々なご支援を頂いた全国労働金庫協会の梅村さんが、仕事の関係で数年前までネパールに出張することが多かったとお聞きし、同行をお願いしました。3日間の滞在でしたが、梅村さん紹介の完璧な日本語の通訳者ア Nilさんのお陰で、滞在中に4カ所を訪問することができました。最初の団体は、40年以上もバングラデシュ、ネパールで活動を続けているNPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会。スタッフの勝井さんから3年前の地震の被災支援プロジェクトの説明を受けました。カトマンズの中心街に残る災害の様子を目の当たりにして、復興の難しさを実感しました。次に、共同プロジェクトとしてスタートした1992年創立の団体SOUP(Society for Urban Poor)の女性の貧困、子ども達の教育など幅広い活動を展開している幹部の詳細な説明を通して女性たちの活躍に頼もしさを感じました。



SOUPオフィス前にて

翌日は、1995年創立のパタンC B R (Patan Community Based Rehabilitation Organization)を見学しました。その通所施設には41名(10歳～成年)の障害者がPT(理学療法士)、教育、職業訓練を受けに通っています。補助金や物品の寄付があっても継続的な運営は難しいとの訴えは切実な課題でした。最後に、梅村さんが勤務していたJILF(国際労働財団)の災害支援として建設された小学校を訪ね、生徒たちの元気な挨拶と笑顔に接して子どもたちの将来のためには教育がいかに大切かを考えさせられました。

今回の訪問で、ほんの少しネパールという国が見えてきました。来年の会議では、現状の課題について学びあう機会が与えられることを期待しているところです。(PIJ代表 谷口奈保子)

●コーディネーター梅村敏幸さんより

私が初めて行った海外が、1981年のネパールトレッキングでした。仕事の出向先の業務でたまたまネパールを訪れる機会が度々あり、今回谷口さんと一緒に訪問する機会を得て、ご縁を感じています。ネパールはインドの北東、ヒマラヤ山脈で中国とも国境が接している内陸国で、山好きにとっては何とも贅沢な景色を堪能できますが、アジアの最貧国のひとつでもあります。乳児死亡率は日本の20倍以上ですし、経済的困窮から学校に通えない子どもが半数近くいるといわれています。首都はカトマンズで、世界遺産として古い寺院など歴史的建造物が多く残っていますが、2015年4月25日のネパール大地震で大きな被害を受け、復興に頑張っています。ただ、貧しくてもネパールの人たちは「餓死者はいない」と誇りを持っています。お釈迦様が生まれた地でもあり、現在はヒンズー教徒が8割を占めているといわれますが、様々な宗教を認め合っていて、大地震の際もパニックにならず、お互い助け合っていました。子どもたちはとって元気でかわいく、政治・経済に深刻な問題を抱えてはいますが大好きな国です。ネパールから帰国して日本のせわしない日常に戻ると、いつも「これでいいのか・・・」と考えてしまいます。(一般社団法人 全国労働金庫協会 人事総務部 梅村敏幸)